［趣旨説明］

日本語教育センター長
異文化コミュニケーション学部教授
丸山　千歌

○**藤田**　それでは講演に参ります。本シンポジウムのコーディネーターは日本語教育センター長、異文化コミュニケーション学部教授の丸山千歌先生です。それでは丸山先生にマイクをお預けいたします。

趣旨説明

○**丸山**　皆様こんにちは。きょうはお天気のいい週末の時間に、日本語教育センターのシンポジウムにお越しくださいましてありがとうございます。**【スライド①-1】**本日の流れでございますが、皆様のお手元にありますこの水色の紙の流れで進めてまいりたいと思っております。フロアの皆様を交えてのディスカッションを、たっぷり時間をとっております。その時間で、内容に関するご質問を頂戴しまして、その後、全体でディスカッションを進めてまいりたいと思いますので、どうぞご協力をよろしくお願いいたします。**【スライド①-2】**

日本語教育センターは 2011 年に設置されまして、毎年 12 月のこの時期にシンポジウムを開催してまいりました。今年で 5 回目となります。本日の企画は「大学の国際化と日本語教育」という主題に「発展的で持続可能な学部・研究科との連携を目指して」という副題をつけてございます。問題提起の前に、日本語教育センターの主な事業、そして本日の構成についてご説明申し上げたいと思います。**【スライド①-3】**

日本語教育センターの主な事業といたしましては、まず日本語の教育のプログラムがございます。このほか、本日もう 1 つ、大事なトピックになってくると思

いますが、日本語相談室という授業外の日本語学習支援をするサポートのサービスがございます。このほか、スピーチコンテストや漢字検定などを実施しております。本日はこの上の 2 つを中心的な課題に取り上げたいと考えております。**【スライド①-4】**

そこで、まず日本語教育プログラムについてご説明したいと思います。要点が幾つかございまして、まず大事なところが、正規学部留学生の 1 年次の学生たちのための日本語の科目です。半期に 2 単位、1 年間で 4 単位取得する、そういったプログラムがございます。これに加えて、交換留学生、今期で言いますと約 200 名が受講しているプログラムでございます。全く未習のレベルから、日本語能力試験でいうと一番上のでレベルである N1 合格以上のレベルまでの学生たちに対する日本語プログラムでございまして、各学期、約 80 コマ展開しております。こういったプログラムが日本語教育プログラムのコアになっているのですが、これらに加えまして、本日のパネリストの先生方にお話しいただく国際経営学研究科のための日本語科目、そしてビジネスデザイン研究科の共同開講科目、そして観光学部の短期受け入れプログラムの日本語科目、そして異文化コミュニケーション学部のための日本語科目、こういったものがだんだん発展的にできてきたところでございまして、それで本日のお話につながってまいります。**【スライド①-5】**

次に日本語相談室についてご説明いたしたいと思います。今ご覧いただいているスライドは今学期の日本語相談室の開室スケジュールです。日本語教育を専門に担当する教育講師の先生がたが日本語教育センターには 4 名いるんですけれども、この先生方が週 12 コマを担当いたしまして、レポートや論文の日本語文章の指導、それから就職活動のためのエントリーシート、それから奨学金の申請書などの日本語文章指導などを行っております。**【スライド①-6】**

この利用件数の推移が今ご覧いただいているとおりでございますが、立ち上げました 2011 年から 2015 年に行くほど、数値がかなり上がっているのが見えてくるかと思います。2015 年度には Web の予約システムを開発いたしまして、学生が自宅から日本語相談室の予約をとれるという形にいたしました。そうしたところ、2014 年度の約 2 倍の利用件数が上がっておりまして、現在、70 ～ 80 %の稼働率で、ほぼ順調に稼働しているところでございます。**【スライド①-7】**

こういった利用というのが、どんな形で、どんな学生たちが利用しているかというのをご覧いただけるのがこちらのスライドになります。こちらは昨年度の 4

月から 2 月の数字なんですが、利用が際立って多いのが正規大学院生だということがわかります。正規大学院生の利用の場合は、修士論文の日本語添削というところが主になっています、進学に向けた学生の場合、かなり戦略的に日本語相談室を利用いたしまして、すごくいい結果につながるケースもございますし、また、論文提出間際になって、その 2 年間の間に日本語のスキルを伸ばさない、それからアカデミックなスキルも伸ばさないで来てしまった学生が、駆け込み寺のような形で日本語相談室を利用するといったケースもございます。これから、きょうの問題提起のところでご紹介いただくと思うんですけれども、留学生がこれから増えていく中で、大学院の学生たちの、こういった日本語相談室の利用というのを有効にしていくためには、どんなふうにしていったらいいか。こちらについても、私たちが今、現在抱えている課題になっております。**【スライド①-8】**

今お話ししたような大きな枠組みのところを踏まえて、本日の問題提起は、日本語教育センターの副センター長で、法学部の教授でいらっしゃいます東條先生に、留学生 2,000 人時代に向けての日本語教育センターの課題というのをお話しいただきます。**【スライド①-9】**

問題提起の後に、パネリストの 4 人の先生方にご報告をいただくのですけれども、先ほどごらんいただいた、学部それから研究科の取り組みとして、国際経営学研究科からスコット・デイヴィス先生、それからビジネスデザイン研究科の取り組みについては山中先生、観光学部の短期受け入れプログラムの日本語については豊田先生、そして異文化コミュニケーション学部については池田先生にご発題いただきます。**【スライド①-10】**

これらの取り組みを、私たちがどんなふうに特徴づけているかということについて、ちょっと簡単にご説明申し上げたいと思います。

まずデイヴィス先生にお話をいただきます、国際経営学研究科の「ビジネス・ジャパニーズ」という科目ですけれども、2013 年、日本語教育センターにとっては、学部、それから研究科との連携の一番初めの取り組みになりました。1 年間の半期に週 5 コマ、14 週展開する、「ビジネス・ジャパニーズ」のインターミディエイトとアドバンストの 2 つのレベルが用意されている科目です。この科目の立ち上げのときに、本日ご登壇いただきますデイヴィス先生からお話を頂戴したのは、科目のコンセプトが非常にはっきりしている内容でした。キャンパスの日本語は要らないと。そうではなくて、将来、企業の幹部候補になる学生が、洗

練された日本語を使えるように、そこを重点的にやってほしい。それから会議の中で、どんな話が流れているのか、そういった大枠が見えるような、そういった日本語教育をしてほしいという、私たちにとってすごくチャレンジングな課題を頂戴したと思っています。このコンセプトに沿った形で、どうやったらいいかと考えて、今、展開しているのが学内にあるセカンドステージ大学のビジネス背景がおありの受講生の方々のお力を借りて、洗練された日本語を駆使するゲストセッションを繰り返し、場数を踏んでいくというような、デザインです。この取り組みについては、担当の栗田先生、それから金庭先生たちと一緒に共同研究も進めていまして、立教の日本語教育の 1 つの目玉科目として大切に育てているところでございます。**【スライド①-12】**

それからビジネスデザイン研究科の共同開講科目につきましては、山中先生にお話をいただきますが、2014 年度から始まっております。この科目の特徴というか肝は、専門教員と日本語教員の共同による科目であるという点になります。本日はこの科目の開講の背景、そしてそこの科目を展開していく際の課題について、山中先生が率直にお話をしてくださる予定です。**【スライド①-13】**

それから、3 つ目は、観光学部の短期受け入れプログラムの日本語でございますが、これは 2014 年度は 1 件、2016 年度は 2 件、日本語教育センターが関わった企画です。日本語教育センターは、日本語の授業デザインと日本語教員の派遣を担当するというような形にしておりまして、短期の受け入れの中で、日本語を勉強するという意義を考えたときに、立教の学生と接触する機会を持って、ぜひまた立教に来てほしいという、そういう願いを込めまして、日本語のクラスの中に立教の学生との接触を組み込む、そういうデザインをいたしました。これについては豊田先生からお話しいただけることになっております。**【スライド①-14】**

それから最後ですが、異文化コミュニケーション学部については、2016 年から TESOL－J の科目を展開しています。異文化コミュニケーション学部の場合は、これに限らず、学部内の多様化というのを強力に推進しておりまして、日本語力についても、他学部と比べていろいろなバリエーションを持った学生を積極的に入れていこうというような戦略に出ています。そういう中で、日本語教育の面での対応に対するニーズというのが急速に高まっている学部です。きょうはこちらについて、恐らく池田先生から、立教の日本語教育の抜本的な改革をということで、強いご意見を頂戴すると思います。**【スライド①-15】**

　このような形で進んでまいりますので、どうぞご協力、よろしくお願いいたします。以上でございます。

【スライド①-1】

大学の国際化と日本語教育
－発展的で持続可能な学部・研究科との連携を目指して－
趣旨説明

立教大学日本語教育センターシンポジウム2016
2016年12月3日
日本語教育センター長・異文化コミュニケーション学部教授
丸山千歌

【スライド①-2】

本日のシンポジウム
大学の国際化と日本語教育
－発展的で持続可能な学部・研究科との連携を目指して－

① 趣旨説明 （10分）

② 問題提起 （30分）

③ 学部・研究科との連携に関する報告4件（各20分）

—休憩—

③学部・研究科、プログラム評価の観点からのコメント（各10分）

④ フロアを交えてのディスカッション （50分）

【スライド①-3】

日本語教育センター

＊ 2011年　日本語教育センター設置
＊ シンポジウム

第1回　2012年12月4日
「大学における日本語教育の意義と可能性」
第2回　2013年12月21日
「海外の大学が日本の日本語教育機関に
期待すること」
第3回　2014年12月6日
「大学の国際化と大学評価
-日本語教育プログラムの貢献をどう評価するか-」
第4回　2015年12月5日
「大学の国際化と日本語教育におけるプログラム評価
－過去・現在・未来－」

【スライド①-4】

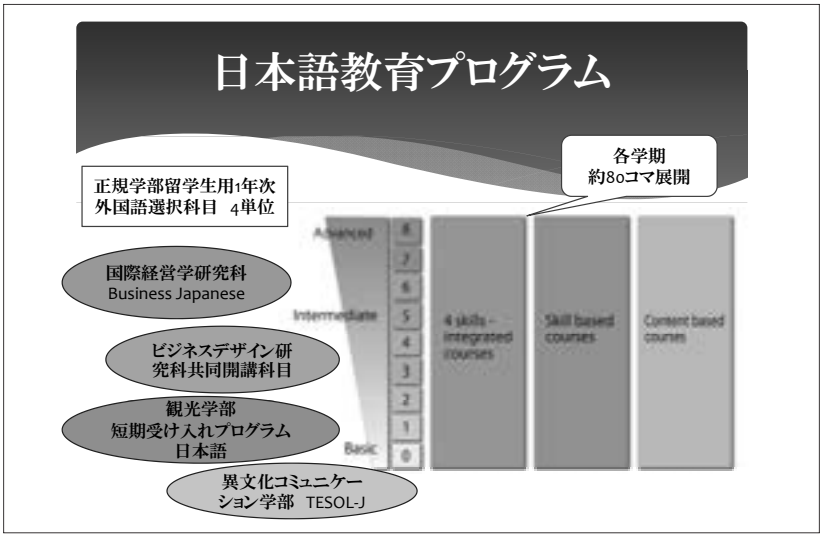
立教大学日本語教育センターの主な事業

＊ 日本語教育プログラム

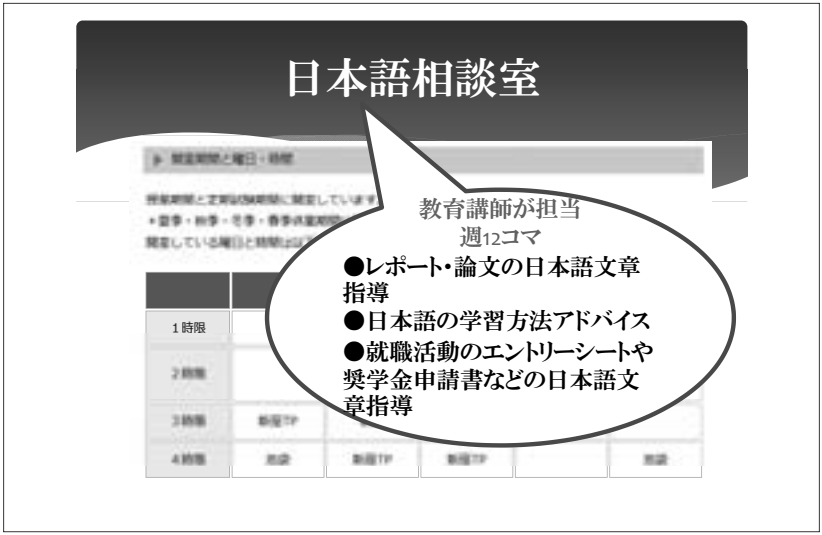
＊ 日本語相談室

＊ スピーチコンテスト・漢字検定など

【スライド①-5】



【スライド①-6】



【スライド①-7】

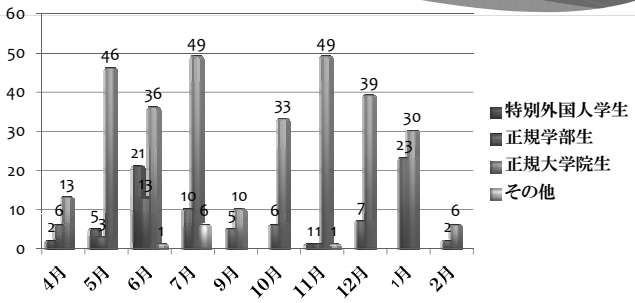
2011年度—2015年度　利用件数推移

Web予約システム
導入

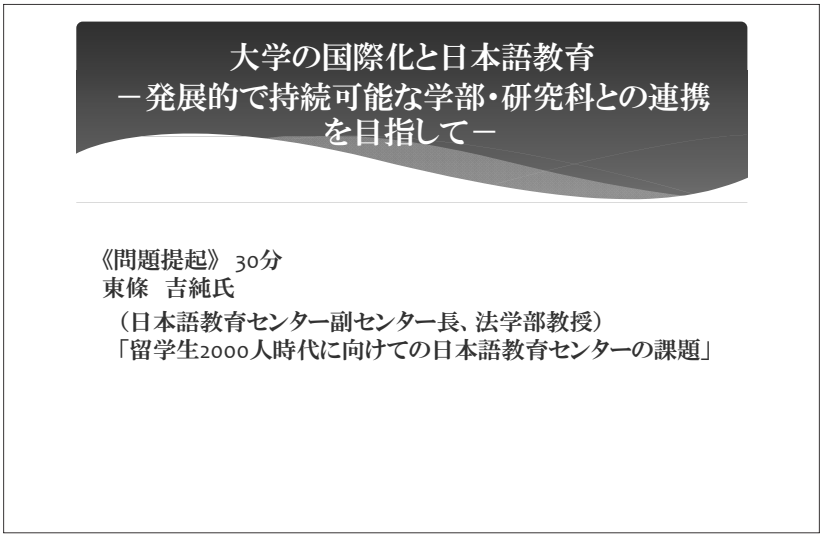
	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
特別外国人学生	26	45	62	46	29
正規学部生	29	18	33	52	76
正規大学院生	89	90	86	138	311
その他				1	8
合　計	144	153	181	237	424
増　減	100	106.3	125.7	164.6	294.4

【スライド①-8】

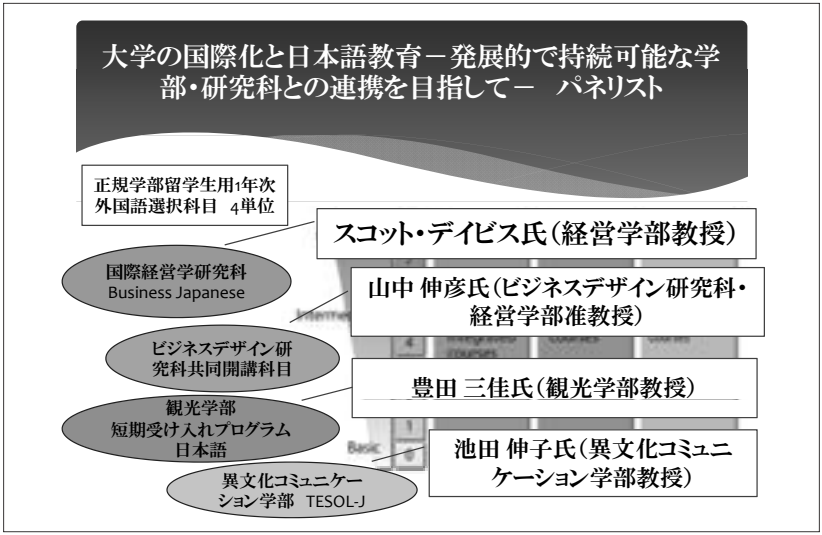
2015年度の月ごとの日本語相談室利用状況（学生種別）



【スライド①-9】



【スライド①-10】



【スライド①-11】

国際経営学研究科　Business Japanese

＊ 2013年度～　週5コマ
＊ Business Japanese Intermediate
　Business Japanese Advanced

＊ 企業幹部候補を想定した洗練された日本語
＊ セカンドステージ大学の協力を得たゲストセッション

【スライド①-12】

ビジネスデザイン研究科 共同開講科目

＊ 2014年度～

＊ ビジネスデザイン研究科、21世紀社会デザイン研究科と日本語教育センターによる共同開講科目

⇒　専門教員と日本語教員の協働

【スライド①-13】

観光学部
短期受け入れプログラム　日本語

＊ 2014年度　マラヤ大学のための短期受け入れプログラム
＊ 2016年度　タマサート大学、マラヤ大学の2件の短期受け入れプログラム

＊ 日本語教育センターは授業デザインと日本語教員派遣を担当

＊ 立教の学生との接触を日本語クラスの中に組み込むデザイン（学生のボランティア参加を観光学部に要請）

【スライド①-14】

異文化コミュニケーション学部

＊ 2016年度～　TESOL-J

＊ 学部内の多様化を推進する中で、日本語教育面の対応へのニーズが急速に高まっている